

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2373000534		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホーム メナージュかずえ		
所在地	豊田市和会町東郷152-1 (電話) 0565-21-6700		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年8月8日

## 【情報提供票より】(平成19年6月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 18人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	・鉄筋造り2階建ての1階部分 ・鉄筋造り1階建ての1階部分 ・木造造り1階建ての1階部分
------	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(平成19年6月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護1	13名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	65 歳	最高	91 歳
協力医療機関名	医療法人財団新和会八千代病院・医療法人豊和会南豊田病院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

かずえの郷は田園地帯にあり、敷地は広く大規模な老人保健施設を中心に、3ユニットの建物が独立してある。建物は、夫々に個性的な造りで、入居者が居心地よく暮らすことができる。医療連携体制がとられ、24時間、老人保健施設からの医療ケアが受けられる。また、重度化した場合も入居者家族に不安のないよう支援されている。職員は認知症ケアの研修を受け、経験を積んだ職員を配置し、自立に向けた介護、自由で豊かに暮らせる支援にあたっている。家族との関係を重視し、家族交流会を開催して交流を図り、運営推進会議に参加し、外部者に自由に意見等を表せる機会をつくっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果は全体の運営にあたる理事会に反映し、改善を図っている。家族交流会でも報告している。運営推進会議でも報告したが、意見は特になかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価には、全職員が取り組み「書くことを通して、再度自分の考えや実践を見直す機会になった。理念に基づいて実践していきたい」と外部評価を積極的に受け止めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、昨年5月から2カ月に1回開催している。参加者は入居者、家族、地域包括支援センター職員、地域役員(区長、民生委員、老人クラブ代表)管理者、職員で構成している。入居者の状態、介護の内容、レクリエーション等、詳細に報告している。評価結果の報告もし意見を求めているが意見は出されていない。家族からも意見が出されるようになり、また、ホームに対する理解も進んだ。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の家族交流会、運営推進会議を開催し家族への報告や意見を聞く取り組みを積極的に行っている。そのため、家族からは「困っていることや不安、求めていることをよく聞いてくれる」と高く評価されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域会議にはかずえの郷運営者が参加し、情報交換している。地域住民が「かずえの郷」に来訪してもらえるよう積極的に取り組み、交流を図っている。ボランティアサークルやコーラスグループ、大正琴のグループ、中学生の体験学習、看護学校の学生実習等、多様に受け入れている。夏祭りを盛大に開催し多数の住民が訪れ、交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	運営理念は母体の老人保健施設と同じ内容であったが、グ ループホームが地域密着型サービスであることを一層意識 して、運営推進会議を開催すること、関連医療機関との連 携を密にすることを付け加えた。理事会で検討しホーム独 自の運営理念とした。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に新入職員研修で理念について説明しており、職員 の異動時にも説明している。日常的に理念を意識した実践 ができるよう話し合い、入居者の支援にあたっている。各 ユニットの玄関に掲示してある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の自治組織には加入していないが、かずえの郷運営者 が地域コミュニティ会議等に出席している。年1回「かず えの郷」にて、地域代表、民生委員、老人クラブ役員、地 域包括支援センター職員、グループホーム管理者、職員で 交流会が行われている。ボランティアサークルやコーラス グループ、大正琴のグループ、中学生の体験学習、看護学 校の学生実習等、多様に受け入れている。夏祭りを盛大に 開催し多数の住民が訪れ、交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	評価結果は全体の運営にあたる理事会に反映し、改善を 図っている。家族交流会でも報告している。今回の自己評 価には、全職員が取り組み「書くことを通して、再度自分 の考えや実践を見直す機会になった。理念に基いて実践し ていきたい」と外部評価を積極的に受け止めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は、昨年5月から2カ月に1回開催している。参加者は、入居者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員で構成している。入居者の状態、介護の内容、レクリエーション等、詳細に報告している。評価結果の報告もし意見を求めているが意見は出されていない。家族からも意見が出されるようになり、また、ホームに対する理解も進んだ。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当職員には、日常的に情報を提供している。介護を必要としている高齢者がどこに行くのがよいかといった相談にも積極的に対応している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族交流会を毎月開催している。話しやすい雰囲気づくりとして、一緒におやつ作りをして交流し雰囲気を和らげ、話し合いをしている。また、入居者の暮らしぶりを伝えるために、写真を撮ってアルバムにいれ閲覧している。欠席者には文書で伝えている。金銭出納帳等は、来訪時に毎回確認を受けている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の家族交流会、運営推進会議を開催し、家族への報告や意見を聞く取り組みを積極的に行っている。そのため、家族からは「困っていることや不安、求めていることをよく聞いてくれる」と高く評価されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームの職員は、新規採用したばかりの未経験の職員は配置せず、母体施設で認知症ケアに慣れた職員を配置している。人事異動の際は、1カ月の余裕を持って、その間にホームに行き、入居者と接するようにし、スムーズに移行できるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育委員会があり、「かずえの郷」の職員全員に関わる研修を行っている。新規採用時には、5日間のカリキュラムに沿った研修が行われている。さらに、6カ月間の個人のプログラムにて現場の指導者による研修を実施し、職員育成に力を入れている。外部研修にも積極的に参加するようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>愛知県グループホーム協会に役員として参加し、西三河連絡会議の運営部長として活躍している。勤務体制、困難事例等について交流し、同業者の質の向上に努めている。</p>		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には、相談員が対応し本人の情報、希望を把握し、受入判定会議をもって入居するようにしている。ホームの見学をしたり、部屋が空いていれば体験入居をしながら、馴染みの関係をつくり、本人、家族が安心して入居できるよう支援している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、個々の入居者の心の状態に合わせて関わるように努めている。また、人生の先輩として、生活の知恵を学んでいる。入居者から励ましてもらったり、労ってもらったりと支え合う関係を大事にしている。調理の不得意な職員を配置して、入居者に教えてもらう場面をつくることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者を受容から始め、本人の思いを理解する訓練をしてきている。朝の申し送りや週1回のカンファレンスを通して、一人ひとりの思いや意向を把握し、情報を共有しながら支援している。また、家族からも希望や事情を把握し、本人の希望にどう寄り添っていけるか検討しながら支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時には、包括的自立支援プログラムで本人の状態を詳細に把握し、本人、家族の希望を踏まえて介護計画を立てている。日々の申し送りやカンファレンス、サービス担当者会議の過程に全職員が参加し、意見を反映できるようにし、本人本位の計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎週、計画作成担当者と職員でカンファレンスを開催し、入居者の状態、希望等を把握し、現状に即した計画になるよう見直している。毎月、家族には説明し話し合って確認し、同意を得た上でサインをもらっている。さらに、3か月に1回、サービス担当者会議をもって計画を更新している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制をとっており、協力医が月2回往診して診療し、疾病や体調管理のアドバイスを受けている。かずえの郷の施設長である医師、看護職員との連携が常時とれるようになっている。入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続が可能であり、家族の安心となっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>精神科や特定の医療を継続して受けることを希望する場合は、家族に対応してもらっている。家族が緊急に行けなくなった場合は、ホームで通院の支援をしている。家族が安心して通院できるよう、必要な情報を提供し、受診後の情報伝達もきちんと言われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合の対応については、入居時に重要事項説明書で説明し、確認している。終末期と判断される場合等、ホームで適切なサービス提供が困難と判断した場合、身元引受人と話し合い、受入可能な施設、医療機関を紹介している。開設以来の退居者で状態悪化の方は病院、認知症状の進行した方は、老人保健施設が退居先となっており、家族に不安のないよう支援されている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保は当然のこととして徹底をしている。職員は入居者に対して年長者への敬意を常に持ち、言葉かけは優しく、丁寧に対応している。個人記録は事務所でとり、管理はきちんとされている。個人情報の取り扱いについては、入職時の研修で徹底して教育している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念に「自発性を尊重し、自由で安全な活動を大切にします」と謳い、日課は基準として設けているが、入居者が自由に生活できるよう支援している。散歩、外出、行事、レクリエーション、趣味の参加状況が月毎にまとめられているが、メニューは多様で、個々の参加状況もまちまちで、外出回数の多い方もあり、自由に生活できるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けの一連の過程を入居者、職員共に支え合い、楽しみながら行っている。献立は入居者の希望を聞きながら、1週間の献立を3回に分けて立てている。食材は、スーパーの広告を見たり、店で旬の品や値打ちな品を見て、入居者と話し合いながら一緒に購入している。そのため、メニューの変更は常にある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重要事項説明書に入浴は週3回以上利用できること、希望すれば毎日入浴できることを明記している。週3日以上入る方が多く、ほぼ毎日入る方もある。入浴時間は夕方を基本にしているが、入居者の希望に添って午前、夜間の入浴にも対応している。介助の必要な入居者には、当番職員が対応し、くつろいで入浴できる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯等、家事全般に生活の主体者として参加し役割をもって生活できるよう支援している。入居者同士、声かけしながら支え合う関係づくりを大事にしている。レクリエーション、地域交流活動、茶道、華道、書道、カラオケ等の趣味の活動や誕生日会、季節の行事と多彩にあり、希望に応じて自由に参加するよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	かずえの郷の敷地が広く、周りも田園地帯で環境に恵まれ、散歩に畑づくりに老人保健施設での地域交流会にと、自由に外出している。食材や個人の希望に応じた買物、ドライブにも出かけている。また、お墓参りの希望にも対応する等、積極的に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さを認識し、8時から19時の日中は施錠していない。安全に配慮する入居者には、注意を払い、センサー等の設置はなく、自由に出入りできるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	かずえの郷全体の防火管理体制をとり、消防計画に則り、年2回消防署と連携して防災訓練を実施している。訓練内容はホームの運営推進会議でも報告している。施設の規模が大きく体制がしっかりしているため、地域住民の協力を得ての訓練はしていない。非常用食料、備品の準備はされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表には、材料も詳細に明記している。管理栄養士が1週間の献立を確認し、栄養、カロリーのチェックをしている。水分量の把握もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、どこも掃除が行き届いて異臭も不快な音もない。和紙を傘にした電球の照明は柔らかく気分を和ませる。居間の天井は高く、天窓があり明るい。天井扇が回り、空気の循環がよく、快適に過ごせるようにしてある。季節を表す入居者の作品や共同で作った七夕飾りが置かれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、長年使い慣れた古いたんすや座椅子、椅子などの家具、テレビや時計、小物等、馴染みの物が持ち込まれている。趣味の品や入居者手作りのカレンダー、作品、家族の写真、生花等、飾られ入居者夫々の生活を移した居室になっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。